

# アクティブラーニングの教育効果に関する研究

## —観光資源改善のためのフィールドワーク実践を事例に—

科学コミュニケーションゼミナール 1316032 高田 謙

### 1. 研究動機・研究目的

近年、大学の教育改革が進み、授業の改善が活発に行われるようになってきている。その中心にあるのが、講義型授業から学生が主体性を持って能動的に講義へ参加する、アクティブラーニング型授業への転換である。2012年8月の中央教育審議会答申ではアクティブラーニングについて「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法」によって「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」としている。これからの時代は「能動的な学習」によって身につけた知識を活用して課題を解決する力や柔軟な思考、広い視野をもつ人材の育成が求められている。アクティブラーニングの一環とされている「グループ討議」や「フィールドワーク」のそれぞれに関する先行研究は見受けられるが、それら全てを行った実践事例やその教育効果に関する研究は少ない。

そこで本研究では、多様にあるアクティブラーニングの方法論の中で、事前学習、フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションにおいて得られる学びと、より教育効果の高いアクティブラーニングを実施するために教員に必要な要素を明らかにする。今回はアクティブラーニングを実施した首都圏在住の大学生を対象とし、アクティブラーニングの教育効果についてのアンケート調査を行う。ここでのアクティブラーニングの内容は、フィールドワークに関する事前研修、現地情報に関する事前学習、フィールドワーク(当日の現地調査、良好事例の収集)、グループディスカッション(良好事例最大活用案の検討)、プレゼンテーション(地元企業・行政への提言)、フィードバック(地元企業・行政担当者によるフィードバック)である。

### 2. 研究方法

本研究は「観光資源改善に向けたフィールドワークと現場への改善提案」を含むアクティブラーニング型の研修に参加した16名の大学生を対象にアンケート調査を実施した。前年にも同様の研修を実施しており、今回の研修には前回に引き続き参加した者もいた。質問票では、事前研修、フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、フィードバックを通して得られた学びについて尋ね、5件法と自由記述式で回答を求めた。また、アクティブラーニングを実施する際に教員に求める資質について自由記述式で回答を求めた。

### 3. 主な結果と考察

今回のアクティブラーニング型研修では、全てのプログラムにおいて肯定的なフィードバックをした学生が多かった。事前研修においては「フィールドワークの目的が明確になった」などの回答から、フィールドワークにつながるものになったと感じている学生が多かつ

た。また、グループに分かれて現地に関する情報収集を行ったため、調査場所のイメージができたというだけでなく他者とのコミュニケーションスキルの向上にもつながったという回答も得た。当日のフィールドワークにおいては「広い視野を持って物事を見ることや、自分の目で見て判断することの大切さを学んだ」などの回答を得た。このことから、フィールドワークは広い視野を持つ力や当事者目線になって考える力が身につけられる教育手法の一つであることが考えられる。グループディスカッションにおいては「自分とは異なる意見を聞くことができ、考えが深まった」などの回答から、お互いの個性を尊重する姿勢や他者の意見との融合で新たな発見を生み出す発想力の育成にもつながることがわかった。プレゼンテーションにおいては「自分や自分たちの考えをわかりやすく伝える力が身についた」などの回答が得た。自分たちの意見を人に伝えるという作業は決して簡単なことではないが、それによって他者の視点に立って物事を考える力が身につけられるだろう。フィードバックにおいては「新たな視点に気づかされたことで今後のフィールドワークの参考になった」などの回答から、発表内容だけでなく活動全体の客観的視点を得ることができたことが学生にとって深い学びにつながったと考えられる。

またアクティブラーニングの際に教員に求める資質については、「クリエイティブな発想ができる空間や雰囲気づくり」「ポジティブな視点を持たせること」などの回答を得た。それらの回答から、教員の支援をより良いものにしていくためには「フィールドワークの際の学生への最低限の助言」と「学生の主体性を引き出せる雰囲気作り」が必要だと考える。教員が中心になって発言しやすい雰囲気、主体性を生み出す空間づくりができれば、グループでの議論が活発になりスムーズなプログラムの進行につながるだろう。教員側は、学生が求めていると考えられるこれらの資質を身につけることで、より教育効果の高いアクティブラーニングが実施できると考える。

#### 4. 結論

本研究より、アクティブラーニングではグループでの活動や非日常の体験が学生の主体性や意欲を喚起するとともに、深い学びにつながることが分かった。また学生は、特に最低限の助言と主体性を引き出す空間づくりを教員に求めていることが分かった。これらのフィードバックをもとに、プログラム内容と教員の支援を改善することで、より教育効果の高いアクティブラーニングの実施が見込める。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

この研究を行うまではアクティブラーニングが講義型の授業よりも深い学びが得られることは理解していたものの、「アクティブラーニングは良いものだ」という程度の認識でしかなかった。しかし今回の研究を通して、アクティブラーニングといってもその手法は様々であり、それぞれの手法が具体的にどのような学びにつながるのかを明らかにすることができた。緒言でも述べているように、アクティブラーニングは学校教育だけでなく企業での研修などにも応用できるため、この研究を今後活かしていきたい。